4.　E2A遺伝子の発現調節機構の解明

(免疫)　秦　喜久美、水口　純一郎

【目的】B細胞分化に必須の遺伝子であるE2A遺伝子について、その転写制御機構の解析を行った。

【方法および結果】転写開始点より上流約2.2kbから下流2.9kbまでの範囲で様々にdeletionをいれたレポータープラスミドを作成し、そのプロモーター活性を測定した。その結果、-357から-158の領域にE2A遺伝子の転写を正に調節するエレメント、+964から+63までの領域に負に調節しているエレメントが存在することが明らかになった。正に調節する配列を、20bpずつ順次欠損させ詳しく解析したところ、プロモーター活性が最も減少したのは-257から-238を欠失したコンストラクトだった。この配列中には既存の転写因子の結合サイトはみつからなかった。gelshift assayを行ったところ、核抽出液にこの配列を特異的に認識する核タンパク質が存在することが確認された。

5.腎移植におけるプレドニゾロンとメチルプレドニゾロンの比較　－メチルプレドニゾロンの有用性について－

(八王子・薬剤部)　竹内裕紀、明石貴雄　(八王子・外科学第五)　赤司 勲、岩本整、濱 耕一郎、鳴海康方、菊池賢治、内山正美、出川寿一、小崎浩一、松野直徒、小崎正巳、長尾桓　(東薬大・臨床薬理)　須賀宏之、平野俊彦、岡 希太郎

著者らは過去にMPSLのリンパ球抑制効果はPSLの12倍以上の力価であることを示した。そこで実際の治療効果をPSL群23名(死体腎16名/生体腎7名)とMPSL群19名(死体腎10名/生体腎9名)の腎移植患者で比較した。S-Cr濃度は生体腎移植患者でMPSL群がPSL群よりも24ヶ月目以上で有意に低いS-Cr濃度を示した。死体腎、生体腎移植患者合わせて、MPSL群とPSL群の生着率の比較をするとMPSL群は有意に移植腎生着率が高かった。副作用発現率は死体腎移植患者の座瘡の発生率を除き両治療群間で有意差は認められなかった。MPSLはPSLに比べて有意に移植腎機能と移植腎生着率を向上させることを示した。

6　気管支喘息と胃食道逆流症についての検討
(24時間食道pHモニターを用いた自験例)

(内科学第三講座)　丸岡　教隆，沖田　美佐，馬島　英輔，桜井かほり，小口　安美，森田　園子，露口　都子，松村　康広，新妻　知行，林　徹
(内科学第四講座)　丸田　和夫

【目的】気管支喘息を対象に胃食道逆流現象(GER)の合併を調査し、GERに対するプロトンポンプインヒビター(PPI)の効果を検討した。【対象および方法】当院第3内科入院中の気管支喘息患者3例に対し胃食道内視鏡および24時間食道pHモニタリングを施行した。さらにGER合併例に対してlansoprazole 30mg/dayを2ヶ月間投与し、同意を得られた1例に再度24時間食道pHモニタリングを施行し、前回の24時間食道pHモニタリングと比較した。またPPI投与前と投与2ヶ月後の喘息点数とPEFR値を比較した。なお対照は健常成人3例である。【結果】気管支喘息患者3例は全例アトピー型で重症であった。気管支喘息患者3例に対し胃食道内視鏡を施行したがGERによる炎症所見は認めなかったにもかかわらず、24時間食道pHモニタリングを施行したところ、対照と比較し全例に異常逆流を認め、GERの存在を確認した。GERを認めた気管支喘息患者1例に対しPPIを2ヶ月間投与したところ、GERの改善を認め、さらに気管支喘息の改善も認めた。【結語】気管支喘息患者では喘息発作のない状態でもGERが存在し、このような症例に対してPPIの投与はGERの改善効果を認めただけでなく、結果的にGERが気管支喘息の病状に関与していることが示唆された。

7　カゼイン含有抗生剤によるアナフィラキシーショック小児例の検討

(小児科学)　長谷川大輔，小穴　信吾，本部真由子，飯山　道郎，柏木　保代，河島　尚志，武隈　孝治，星加　明徳

牛乳成分のひとつであるカゼインは、食品添加物に用いられるほか工業製品などにもその用途は及び、医薬品にも添加されている。その反面、β-ラクトグロブリンに次ぐ、牛乳成分中の主要アレルゲンとしても知られ、近年、カゼイン含有抗生剤によるアナフィラキシーの報告が相次いでいる。当科では同様例の経験を踏まえ、牛乳アレルギー患児におけるカゼインアレルギーの存在について調査を行った。牛乳RAST陽性児8例中、6例がカゼインRASTも陽性であったが、実際にカゼイン含有抗生剤にて症状を呈したものは3例のみであった。そのうち2例に薬剤誘発リンパ球刺激試験(DLST)を施行したところ、ともにカゼインにて陽性となった。カゼインRASTが陽性でも無症状の場合もあり、RASTは必ずしも臨床症状を反映しないが、カゼイン含有薬剤の使用に際しては、DLSTも含めたカゼインアレルギーの検索が重要と思われた。